

平成25年度 鹿沼市の健全化判断比率・資金不足比率

★健全化判断比率

区分	平成25年度	早期健全化基準
実質赤字比率	-	12.21%
連結実質赤字比率	-	17.21%
実質公債費比率	4.0%	25.0%
将来負担比率	15.7%	350.0%

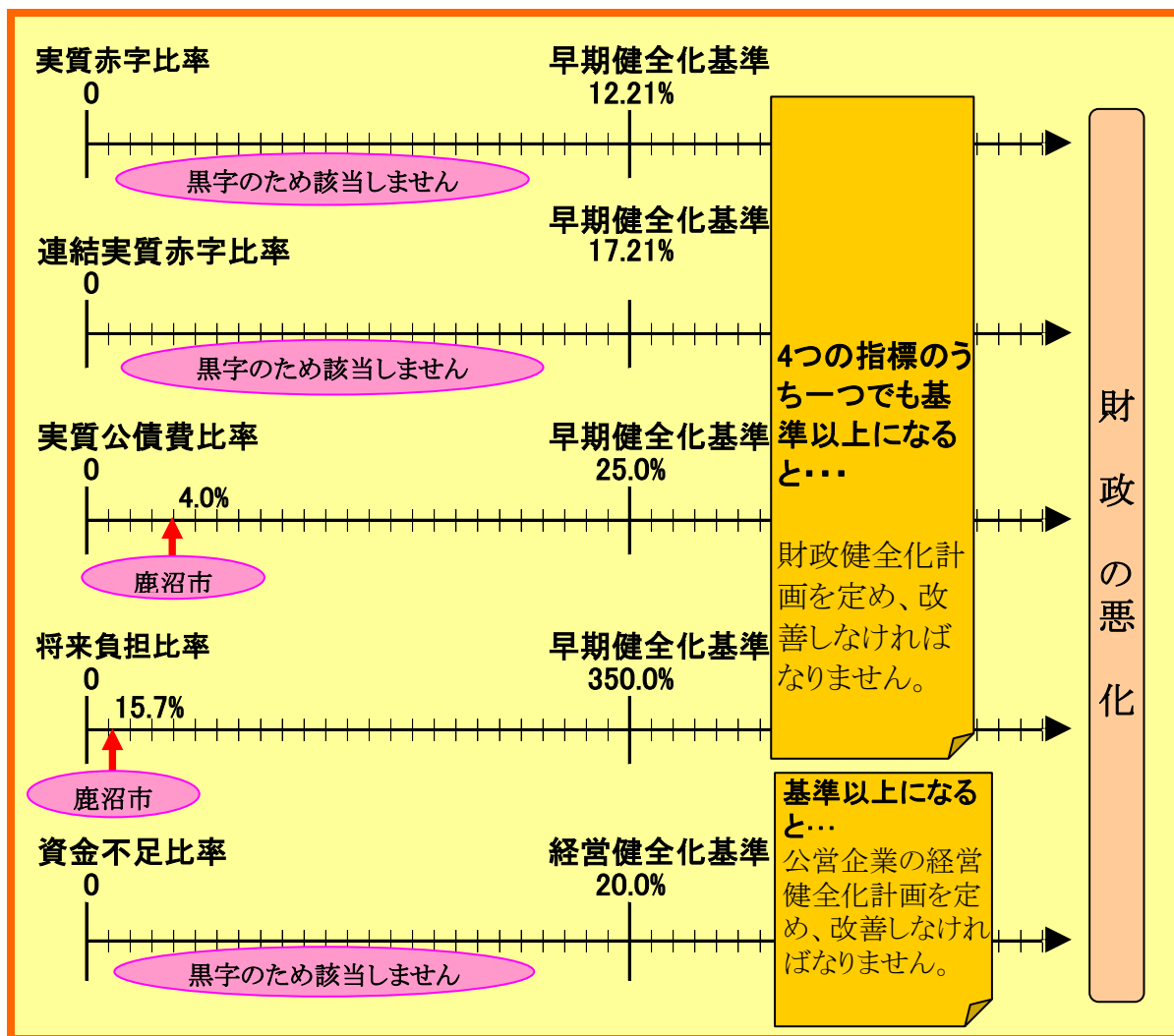
★資金不足比率

会計名	平成25年度	経営健全化基準
水道事業会計	-	20.0%
公共下水道事業費特別会計	-	
簡易水道事業費特別会計	-	
公設地方卸売市場事業費特別会計	-	
農業集落排水事業費特別会計	-	

※早期健全化基準と経営健全化基準は、財政破綻の黄色信号をあらわします。

※ “-” は「該当なし」ということです。

グラフで見てみると



鹿沼市の健全化判断比率・資金不足比率を算出

■健全化判断比率

① 実質赤字比率

○算出式

$$\begin{aligned} \text{実質赤字比率} &= \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}} && \text{早期健全化基準} \\ &= \frac{\text{赤字額なし}}{23,262,225 \text{千円}} = \text{該当なし} \leq 12.21\% \end{aligned}$$

② 連結実質赤字比率

○算出式

$$\begin{aligned} \text{連結実質赤字比率} &= \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}} && \text{早期健全化基準} \\ &= \frac{\text{赤字額なし}}{23,262,225 \text{千円}} = \text{該当なし} \leq 17.21\% \end{aligned}$$

③ 実質公債費比率

○算出式

$$\begin{aligned} \text{実質公債費比率} &= \frac{\left(\begin{array}{c} \text{地方債の元利償還金} \\ + \\ \text{準元利償還金} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{償還のための特定財源} \\ + \\ \text{交付税のうち基準財政需要額に算入} \\ \text{された元利償還金・準元利償還金} \end{array} \right)}{\text{標準財政規模} - \text{交付税のうち基準財政需要額に算入} \\ &\quad \text{(3ヵ年平均)} && \text{された元利償還金・準元利償還金}} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\frac{\begin{array}{ccc} \text{平成23年度} & & \text{平成24年度} & & \text{平成25年度} \\ 2.8\% & + & 4.5\% & + & 4.8\% \end{array}}{3 \text{年}} = 4.0\% \leq 25.0\% && \text{早期健全化基準} \end{aligned}$$

④ 将来負担比率

○算出式

$$\begin{aligned}
 \text{将来負担比率} &= \frac{\left(\begin{array}{l} \text{一般会計等の地方債現在高} \\ \text{債務負担行為の支出予定額} \\ \text{公営事業会計等の地方債元利償還} \\ \text{のために一般会計等から支出する} \\ \text{見込額} \\ \text{一般会計等の退職手当支給予定額} \\ \text{地方公社や第3セクター等の負債額のうち、} \\ \text{財務・経営状況を勘案した一般会計等の} \\ \text{負担見込額 など} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{l} \text{将来負担額に充当することが} \\ \text{できる基金} \\ \text{将来負担額のうち、地方債の元} \\ \text{利償還・準元利償還、債務負担} \\ \text{行為の支出予定額に充当するこ} \\ \text{とができる特定財源} \\ \text{地方債現在高に係る交付税の基準} \\ \text{財政需要額算入見込額} \end{array} \right)}{\text{標準財政規模} - \text{交付税のうち基準財政需要額に算入} \\ \text{された元利償還金・準元利償還金}} \\
 &= \frac{\text{将来負担額 } 50,991,978 \text{千円} - \text{充当できる財源等 } 47,849,171 \text{千円}}{23,262,225 \text{千円} - 3,277,986 \text{千円}} \\
 &= 15.7\% \leq 350.0\%
 \end{aligned}$$

■資金不足比率

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模(営業収益の額－受託工事収益に相当する収益の額)}}$$

	資金不足額なし		該当なし	≤	経営健全化基準
●水道事業会計	1,229,766千円	=	該当なし	≤	20.0%
●公共下水道事業費特別会計	1,098,548千円	=	該当なし	≤	20.0%
●簡易水道事業費特別会計	133,531千円	=	該当なし	≤	20.0%
●公設地方卸売市場事業費特別会計	7,313千円	=	該当なし	≤	20.0%
●農業集落排水事業費特別会計	44,006千円	=	該当なし	≤	20.0%